

山添村羊小屋プロジェクト

羊と小屋が作り出す耕作放棄地の新たな風景

2022年より間わりのある奈良県山添村を敷地に、羊と人のための居場所を計画、設計、施工を行ったプロジェクトである。小さな小屋づくりが、村の住民や環境へ大きな影響を及ぼす。



苧蓆張りされた壁の隙間



小屋の奥には村の風景が広がる



ベンチに座って羊と村を眺める



みんなで支えながら建方

敷地：奈良県山添村

奈良県の北東端に位置する山添村は、大阪圏から約1時間、名古屋圏からも1時間半程度と、都市部から気軽に訪れることができる、ちょうどいい「イナカ」である。約80%が山林で、集落と農地が点在している村である。



村の課題①：少子高齢化

年々人口が減少しているとともに、若年人口も減少している。過疎化の要因として、基幹産業である第一次産業の低迷、雇用が大きく結びつく地場産業が少なく、都市との生活基盤の格差がもたらす若者世代の人口流出に歯止めがかからないことが考えられる。

村の課題②：耕作放棄地

人の手が増えられず、耕作されていない、耕作放棄地や遊休農地、荒廃農地が年々増加している。主な原因は高齢化で、若い年齢層は都市圏に移住、就労するために農村人口が減少し、地域間のコミュニティ維持が難しくなったことも原因として考えられる。耕作放棄地により、害虫や野生動物の繁殖や廃棄物の不法投棄など、周辺環境、住民への悪影響も及ぼすおそれがある。

羊と人が主役のまちづくり

これらの課題を解決するべく、羊に草を食べてもらうことで人が草を刈る労力を減らし、羊と人が助け合って暮らす新たな山添の風景を作り出すことを目標とした。



羊のレンタル

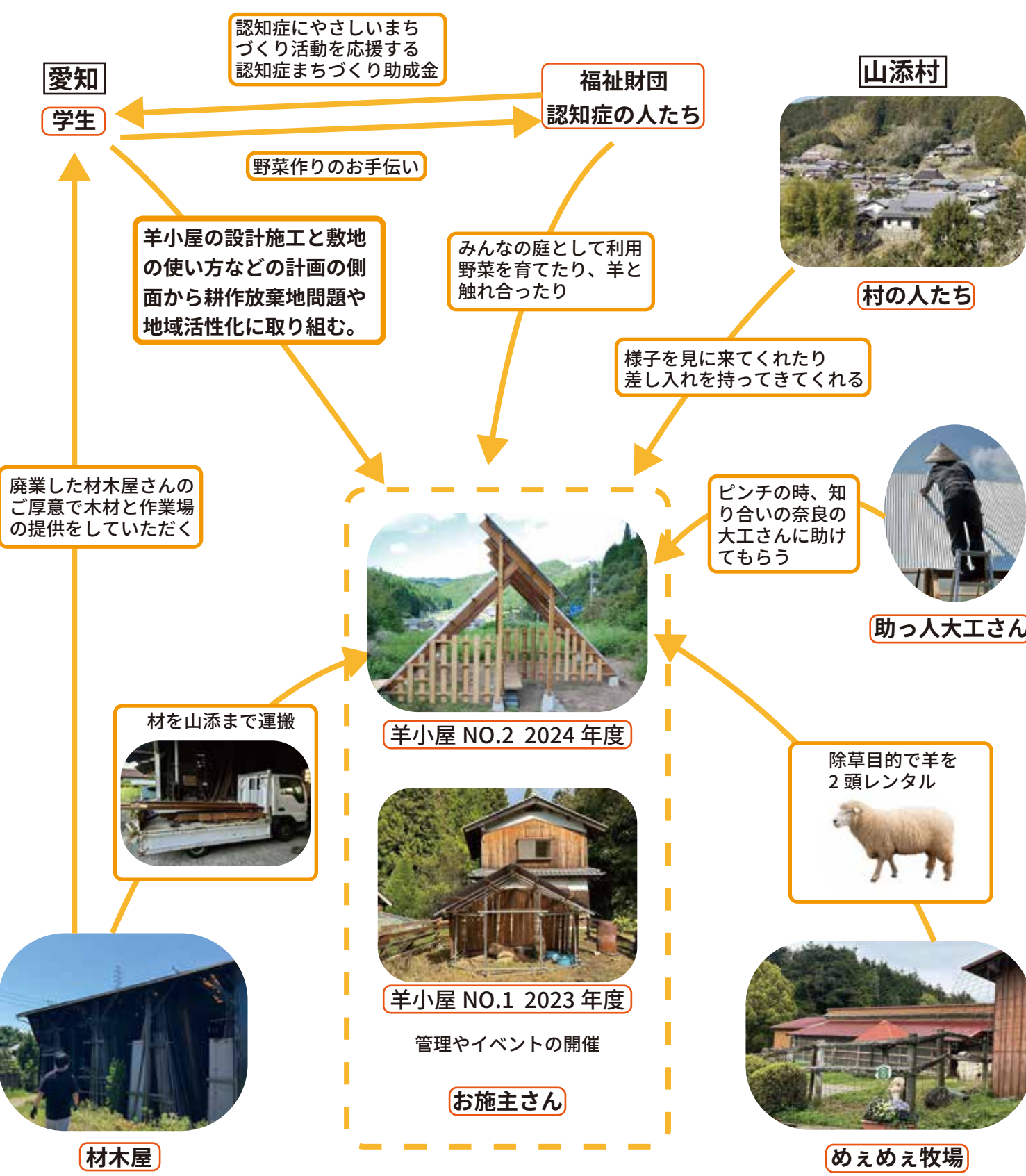
山添村にある観光施設「めえめえ牧場」は除草を目的に羊を貸し出すサービスを行っている。原点は村の景観を損なうことになる耕作放棄地の雑草対策である。牧場に生える草だけでは餌が足りず、別に乾草を購入していることもあり、貸し出すことで餌代の節約にもなる。羊は2匹を一組として貸し出し、特別な世話は要らないが、毎日の水やりは欠かせない。

羊のための小屋

牧場から羊をレンタルするためには、雨風をしのげるような小屋と羊が脱走しないための柵が必要になる。〈小屋の条件〉

- ・雨風がしのげること
- ・壁3面が閉じていること
- ・2匹の羊が入れること

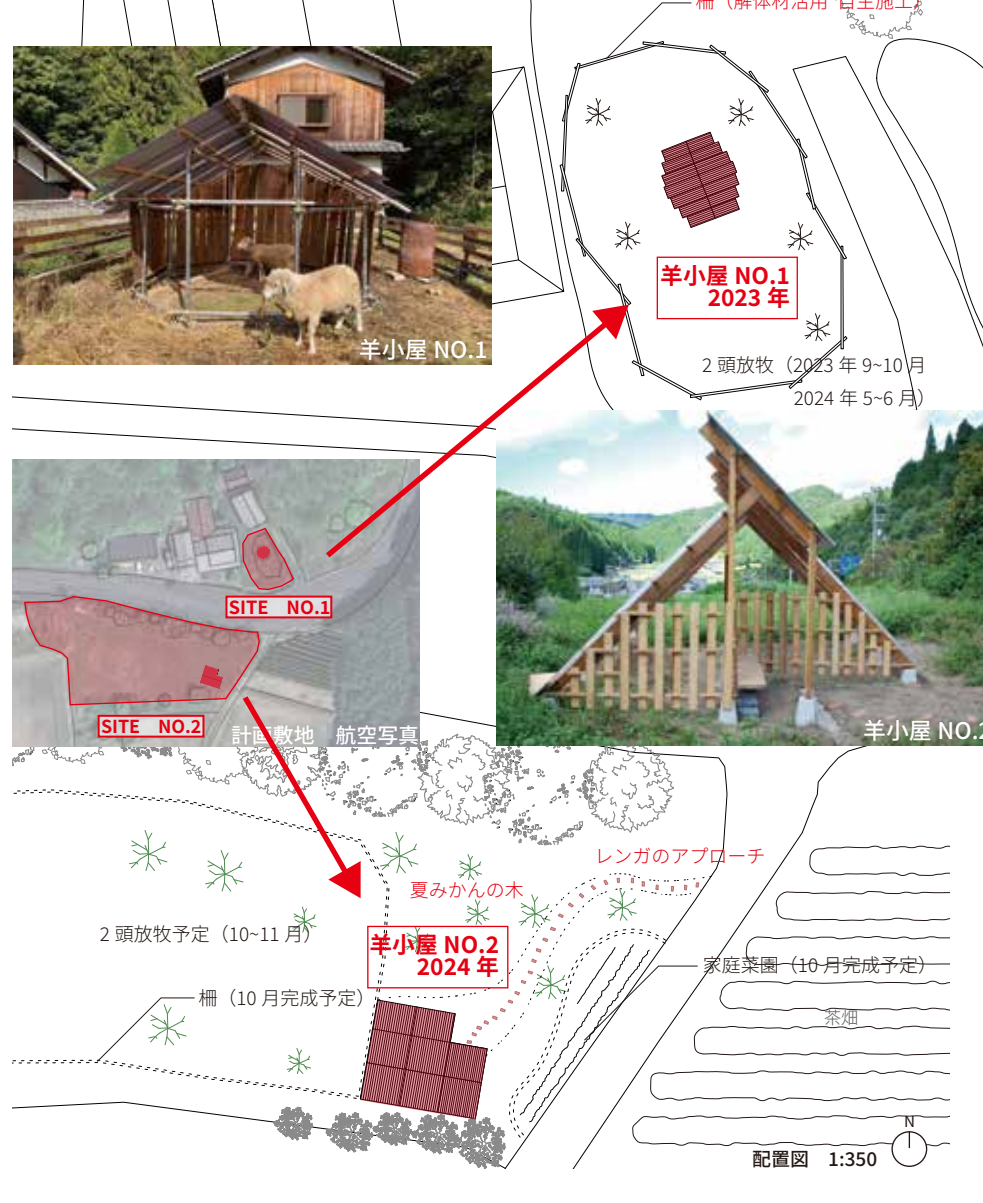
2024 年プロジェクト関係図



ローコストかつセルフビルドでつくる建築

このプロジェクトは学生の自主活動であるため予算は助成金の25万、施工はセルフビルドという制約があり、なおかつ敷地は愛知から車で往復4時間かかる奈良県山添村である。そこで、下記の5つの目標と共に設計・施工に取り組んだ。

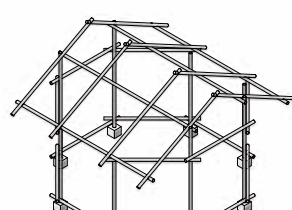
1. 施工方法が簡単な構造であること。
2. 現地での施工期間が短いこと。
3. 無駄を減らし、費用を抑えること。
4. 羊が快適に過ごせること。
5. 山添の耕作放棄地のランドマークとなる羊小屋、建築であること。



できるだけ簡単な施工方法で骨格を組み立てる構造体

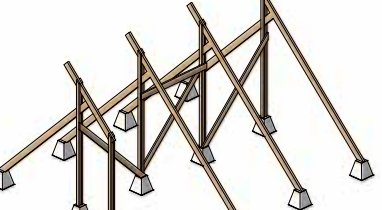
羊小屋 NO.1 単管パイプのフレーム

NO.1 では、単管パイプを用いた構造である。鉄という素材の強さ、クランプで固定できることというメリットと、長さの規格が少なく、加工が難しいという制約と共に容易に組み立てられるよう設計した。

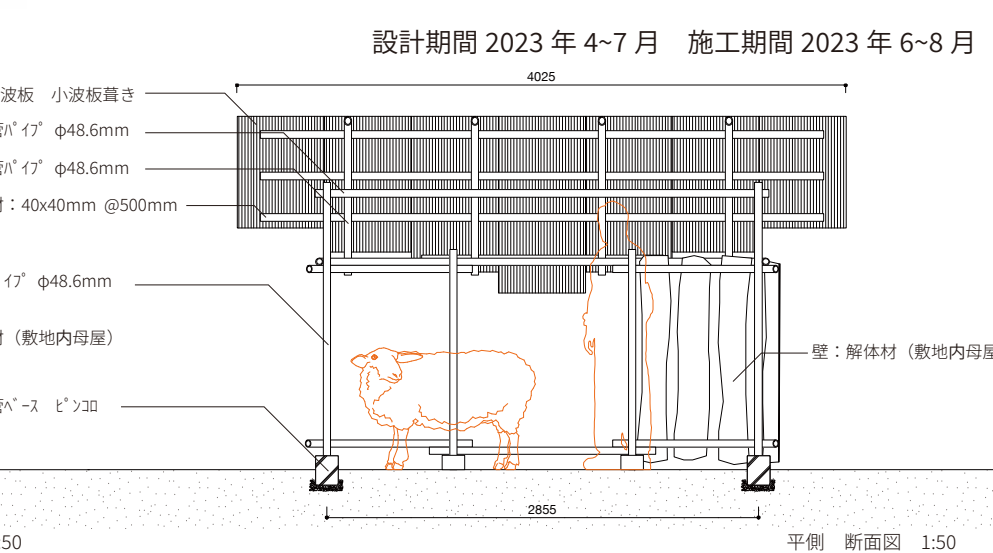
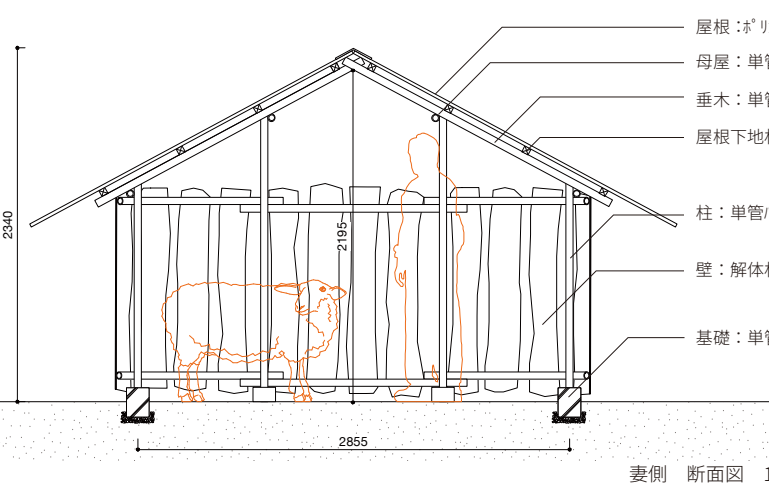


羊小屋 NO.2 木架構のユニットフレーム

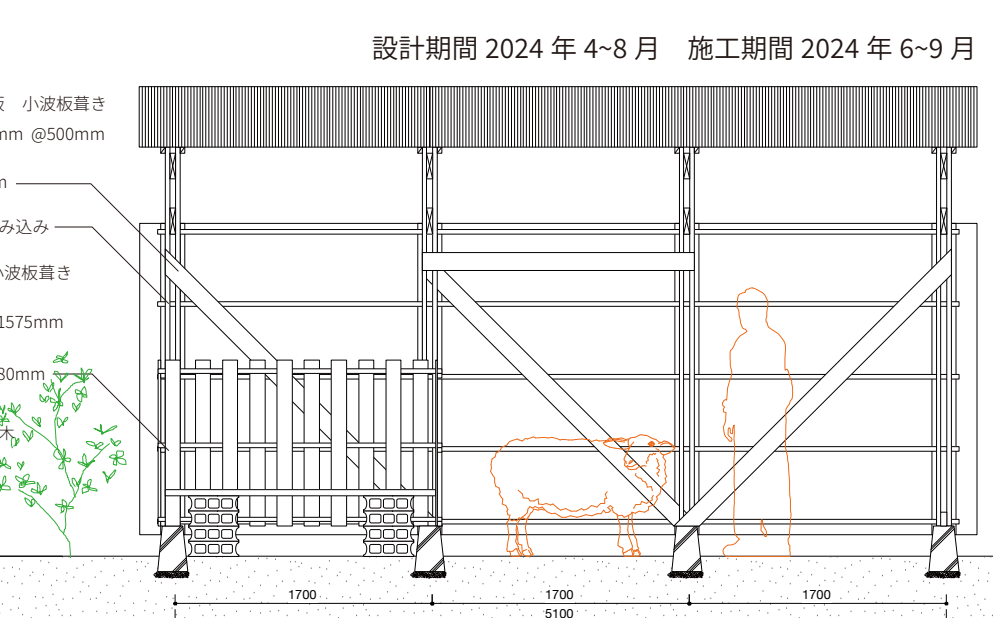
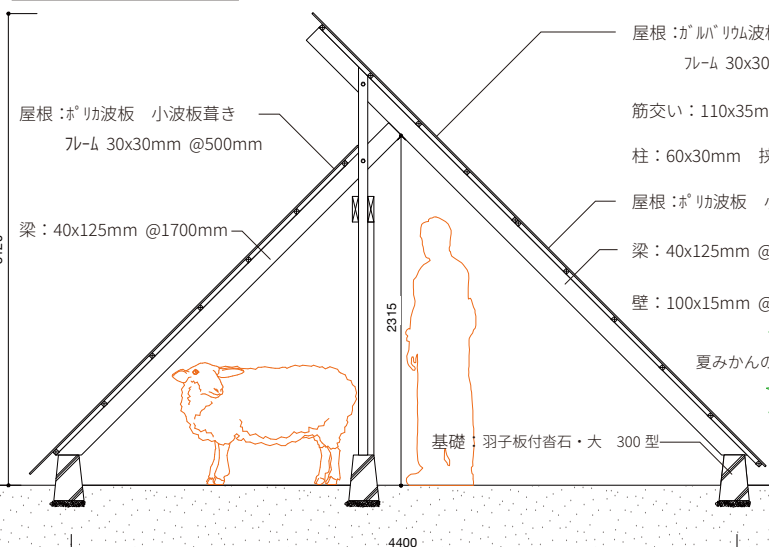
NO.2 では、愛知で木材を加工し、奈良で組み立てることをいう施工計画とした。そこで、少ない材と工程で、トラックの荷台に載せられるよう、接合部にはボルトを用い、壁と屋根が一体となった木架構を4つ反復させ、プレースでつくる構造体を設計した。



羊小屋 NO.1



羊小屋 NO.2



3 年間の歩み



代表者：大嶋唯花

Mail : ooyuika0607@gmail.com